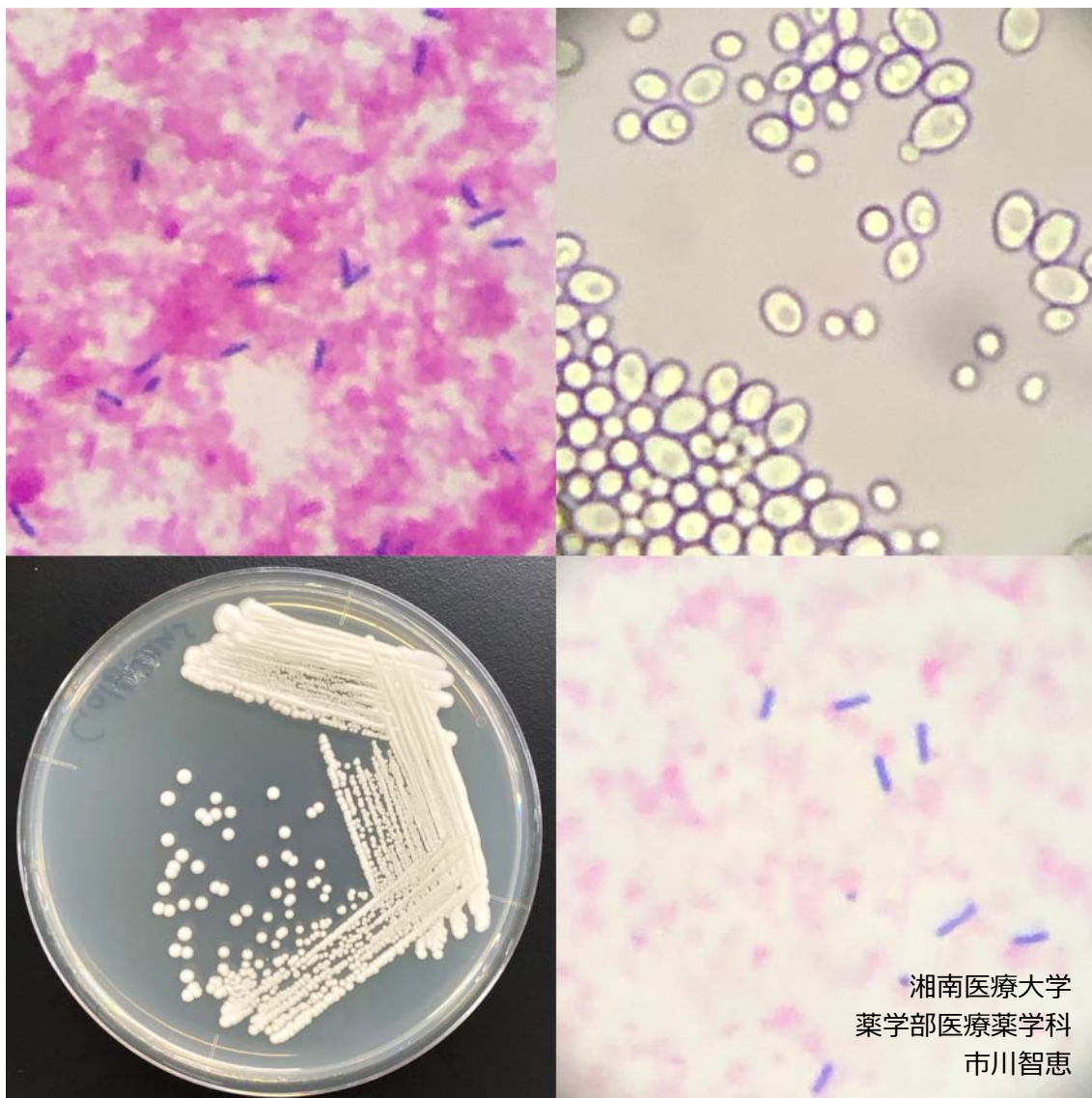


湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ



1. 教育の責任

湘南医療大学建学の理念は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」である。理念に基づき、教員は、継続的学習力・想像力・課題解決能力を育む「幅広い教養教育」だけでなく、責任感と使命感を持って自律的、主体的に実践能力を発展させていける医療従事者の養成を使命としている。その医療従事者の養成には、エビデンスに基づいた高度な専門知識・技術の修得や、人間性を育むこと、地域社会に貢献することが目的として挙げられる。

薬学部医療薬学科では微生物学 II、免疫学 I, II、薬理学 II、微生物学実習、薬学総合プレ研究などを担当している。今年度から感染制御学の講義も担当している。

[資料 1 湘南医療大学シラバス]

湘南医療大学大学院では感染看護学の特論とその演習を担当している。

[資料 2 湘南医療大学大学院シラバス]

その他の教育活動として、チューター活動、入学前養育や、学修支援チームの一員として補講を行なっている。

表1. 担当講義・実習科目			
科目名	対象	学年	種別
微生物学 II	医療薬学科	2年	必修
免疫学 I	医療薬学科	2年	必修
免疫学 II	医療薬学科	3年	必修
薬理学 II	医療薬学科	3年	必修
微生物学実習	医療薬学科	3年	必修
薬学総合プレ研究	医療薬学科	3年	必修
卒業研究 I	医療薬学科	4-5年	必修
感染制御学	医療薬学科	6年	選択
卒業研究 II	医療薬学科	6年	必修
感染看護学 特論 I	大学院生	1年	選択
感染看護学 演習 II	大学院生	1年	選択

表2. チューター指導学生数	
	R8年度
入学前チューター指導人数	
1年生チューター指導人数	8人
2年生チューター指導人数	
3年生チューター指導人数	
4年生チューター指導人数	4人
5年生チューター指導人数	3人
6年生チューター指導人数	1人
合計	16人

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の教育理念は、「自分で考えて実践できる薬剤師の育成」である。医療分野では新薬の開発や新しい診断法の開発など日々進歩しており、薬剤師はそれらがどのような薬理作用を持つのか、どのようなメカニズムで診断に寄与しているのか、といった情報を理解することが必要である。本学薬学部は6年制の医療薬学科のみであるため、基礎分野の研究職へ進む学生は少数であり、病院や薬局など臨床の薬剤師になる卒業生がほとんどと見込まれるが、薬剤の作用メカニズムなどを理解するには、基礎的な学問的知識が必要になる。一方で、薬剤師として職能を発揮し続けるためには、大学在籍時の授業だけではなく、生涯学習も必要になる。主体的な継続学習のためには、基本的な知識や研究技術と共に論理的な思考が必要であり、これらを大学在籍時に習得することで、新薬開発までの基礎研究の背景や重要性も理解し、患者に適切な情報を提供できるようになると考えられる。薬剤開発時や販売後にも開示される研究データがあるが、そのような治療に関わる基礎データを含めたエビデンスなどを積極的に取得し、理解し、患者・社会へ還元できる薬剤師の育成に努めたいと考えている。

2) 理念をもつに至った背景

本学では薬学部教育において、臨床に強い薬剤師を掲げ、17 グループ病院の協力のもと、臨床密着型教育を行なっている。また、近年はチーム医療の推進により、多職種と連携しながら病棟の薬剤業務を行うことが求められている。本学は医療系の複数の学科を持つことから他の学科と連携した教育が進められており、私も複数の学科の講義を受け持っている。医療従事者としての職能を発揮するには、エビデンスに基づいた高度な専門知識・技術の修得が必要であり、薬剤師においても、基礎・臨床ともに研究能力の向上は不可欠である。最近では社会的にも特にその充実強化が求められていることから、研究能力を持った薬剤師を育成できる教員が必要と考えられている。また、大学在籍時に習得する研究能力は、大学卒業後や国家免許取得後に必要となる主体的な生涯研修を進める際にも必要である。これらは本学医療薬学科のディプロマ・ポリシーに規定される医療人として必要とされる資質にも含まれる。

3. 教育の方法・戦略

「自分で考えて実践できる薬剤師の育成」を目指し、基礎的なことは教科書ベースで学習し、自分で応用できるようになっているかを確認しながら授業を進める。患者への薬理作用などの説明は、説明者自身がよく理解していなければわかりやすく説明することができないと考えられる。私の科目は主に微生物学、免疫学の講義コマ数が多いが、どのような理由で薬剤が選ばれているのかなど、単純に覚えるだけでない情報も授業に取り入れていく。また、長期的には他者とのディスカッションも有益であると考えられることから、問題演習の発表や実習の質疑応答・知識の確認などは会話形式で行い、その場で調べたり、自分で考えて意見を述べる時間を作っている。

1) 基礎的な知識や情報をもとに、専門的な知識・技術を発揮できる人材の育成

- ・ 何を学ぶか、目的意識を持ってもらうために、初めにシラバスの説明を行い、教科書以外の資料で補完しながら授業を進める。[資料 3 授業スライド]
- ・ 授業後に行う問題演習については、授業開始時に問題を開示し、どのようなところを注意して授業に参加したら良いかポイントを説明することで、授業へ自発的に取り組めるように促す。
- ・ ペンタブによる書き込み式の授業を行うことで、学生がメモをとりやすくする。
- ・ 授業の学習内容から応用してどのようなことが思考できるか、教科書に書いていない場面に知識を応用できるかなどを問題演習に組み込む。
- ・ 自主的な復習のために問題演習の解説動画を作成する。
- ・ 実習やブレ研究では自発的な情報収集を促し、レポートやプレゼン資料など成果物作成を通し達成感を得られるよう補助する。[資料 4 微生物学実習 実習書、資料 5 薬学ブレ研究 実習書]

2) 最新の知識を患者や社会へ還元できる薬剤師の育成

- ・ 研究会や専門学会で授業科目内容に関わる最新情報を入手する。
- ・ 専門学会等で新たに報告された新しい薬剤のメカニズムや、新薬の臨床情報などを授業に反映し、高度な情報提供に努める。

- ・ 積極的な授業参加を促す動機付けの一つとして、新薬開発や臨床に基礎科目がどのように関与・貢献しているかという点を示す。

4. 学習成果

1) 学生からの授業評価やコメント

- ・ 学生からの授業評価

「授業ポイントと問題演習解説の動画公開が良い」

「授業中に問題演習を示し質疑応答をしてくれるのが良い」

「国家試験問題を示してくれるのが良い」

などの意見が得られており工夫した点が評価されている

[資料 6 R4-R6 年度 看護学科微生物学本試験]

- ・ 実習やプレ研究後には継続して微生物学に興味を持つ学生も見られ、研究の必要性や楽しさなども伝えられていると考えられる。

5. 改善のための努力

- ・ 情報収集

授業アンケートだけでなく、授業改善を目的として個別に聞き取りや、任意で学生の意見を書いてもらっており継続する予定。

- ・ 授業プリントのわかりやすさの改善

学生の授業評価や個別聞き取りをもとに、配布プリントのレイアウトや文字の大きさなどを毎年改善している。

- ・ 授業配分の改善

90 分の授業の集中力を維持するために、1 コマを前半と後半に分け、それぞれに問題演習の質疑応答を行うことも試みている。一部の科目で復習動画公開を行なっているが、学生が授業内容が難しいと感じた授業では復習動画の再生回数が高くなるため、それを指標に次年度の講義内容の難易度等を改善する。

6. 今後の目標

短期: 授業中に課題を出しているが、自学を促すために、記述で解答する内容を増やす。

今年実践できなかった科目でも、授業中の質疑応答時間を確保することや、復習動画の公開などを行い、学生の反応から次年度の授業改善に繋げたい。次期開講の授業で実践する。

長期: 研究室配属学生による学会発表を目標にする。4 年次から卒業研究を行うにあたり、積極的に研究に取り組み学会発表等を行いたい意思のある学生には、それを目標に指導したい。

【添付資料】

資料 1 湘南医療大学シラバス

資料 2 湘南医療大学大学院シラバス

資料 3 授業スライド

資料 4 微生物学実習 実習書

資料 5 薬学プレ研究 実習書

資料 6 R4-R6 年度 看護学科微生物学本試験裏面